

授業概要

初めて中国語を学ぶ人のための授業である。日本の高校を卒業した人は平均 3,000 字を読めると言われているが、その漢字のほとんどが中国の漢字と重なっていることを考えれば、中国語を学ぶ際の大きな財産となろう。しかし、漢字が同じでも発音や文法が異なるので、常に高い学習意欲をもって勉強することが求められる。積極的に発音練習を行い、分からないことをどんどん質問するのが上達の近道である。本授業は中国語の発音・文法の基本を学びながら、中国人の表現方法や文化の多様性に触れて、視野を広げてもらうことを目指している。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：中国語はどんな言葉？（発音、簡体字、ピンイン、基本文型と語順） この授業について（授業内容、授業方法、評価方法、テキストなど）
第 2 回	声調、単母音、複母音
第 3 回	子音、鼻母音、r 化音
第 4 回	人称代名詞
第 5 回	動詞「是」と助詞「的」
第 6 回	動詞述語文（SVO）
第 7 回	選択疑問文と疑問詞疑問文
第 8 回	動詞「喜歡」と助動詞「想」
第 9 回	所在を表す「在」
第 10 回	存在を表す「有」
第 11 回	数詞と量詞
第 12 回	年月日、曜日、年齢、時刻の言い方・使い方
第 13 回	二重目的語
第 14 回	形容詞述語文
第 15 回	総復習
第 16 回	期末試験

到達目標

- 1、中国語はどんな言語か理解できる。
- 2、中国語の発音と文法の基本をマスターできる。
- 3、中国語であいさつや簡単な会話ができる。
- 4、中国文化について初歩的な知識を身につける。

履修上の注意

遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。

予習・復習

事後学習としてテキスト、ノートをしっかりと読み返し、また音声再生アプリ「リスニング・トレーナー」や CD を利用して発音練習を行ってください。

評価方法

期末試験 50%、授業参加の積極性 50%で評価する。

テキスト

- ・教科書名：かんたん楽ショウ！初級中国語・入門編
- ・著者名：陳 淑梅
- ・出版社名：朝日出版社
- ・出版年 (ISBN)：2023 年 1 月 (978-4-255-45372-9)

授業概要

この授業は初めて中国語を学ぶ学習者を対象とするものである。正確な発音の読み書きや基礎単語、初級レベルの文法項目などを学ぶ。授業中、先生やクラスメートとの練習、ロールプレイなどを通して、中国語の基本的な表現を身に付ける。最終的に日常的なコミュニケーション能力を養う。また、中国関連の視聴覚資料や中国の歌などを通して現代中国の文化や社会にたいする理解力を高めていくように講義する。

授業計画

第 1 回	はじめての中国語、中国語の発音基礎 1（声調、あいさつ言葉）
第 2 回	中国語の発音基礎 2（単母音、子音）
第 3 回	中国語の発音基礎 3（複合母音、鼻音母音、数字の言い方）
第 4 回	第 1 課 初対面のあいさつなど、要点、会話文
第 5 回	第 1 課 会話文、練習問題、読み物
第 6 回	第 2 課 いろいろな場所の言い方など、要点、会話文
第 7 回	第 2 課 会話文、練習問題、読み物
第 8 回	第 3 課 いろいろな身の回り品の言い方など、要点、会話文
第 9 回	第 3 課 会話文、練習問題、読み物
第 10 回	第 4 課 いろいろな中華料理の言い方など、要点、会話文
第 11 回	第 4 課 会話文、練習問題、読み物
第 12 回	第 5 課 1 日のルーティン、時刻の言い方など、要点、会話文
第 13 回	第 5 課 会話文、練習問題、読み物
第 14 回	第 6 課 いろいろな特長の言い方など、要点、会話文
第 15 回	第 6 課 会話文、練習問題、読み物
第 16 回	筆記試験

到達目標

1. 正しい発音、基礎単語、文法をマスターする。
2. 中国語で自分の名前や自己紹介などを言えるようになる。
3. 教科書の表現を覚え、実際の場面に生かすことができるようになる。
4. 中国文化や歌などを通じて、中国語学習の興味を高めるようになる。

履修上の注意

積極的な授業参加の態度が必要である。
遅刻 3 回は無断欠席 1 回となる。

予習・復習

予習については、単語や会話などを付属音声で聞き、発音を確認する。文法の説明を予習する。
復習については、授業で習った文法、単語、会話を復習し、覚える。

評価方法

学期末試験 70% 平常点（授業態度、小テスト） 30%

テキスト

- ・教科書名：『中国語への旅立ち ―基礎からの出発―』
- ・著者名：王振宇 李小捷著
- ・出版社名：朝日出版社
- ・出版年（ISBN）：978-4-255-45387-3